

「東北アジア歴史財団編『西洋古地図の中の朝鮮半島、東海そして独島』を批判する」(抜粋)①

下條正男(島根県立大学・東海大学客員教授)著

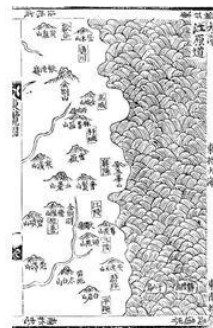
ダンビルの『朝鮮王国図』(1745年)には、朝鮮半島の東側、江原道の平海と寧海の沿海部分に「Fan-ling-tao」、「Tchian - chan-tao」と表記された島が二つ、描かれている。キム・ジュンクン氏は、その「Tchian - chan-tao」と記されているのが于山島で、現在の独島なのだという。それ故、ダンビルの『朝鮮王国図』では、独島を韓国領としていたとするのがキム・ジュンクン氏の論理である。

だがここで、于山島が「Tchian - chan-tao」と中国語の発音で表記されているのは、ダンビルの『朝鮮王国図』には、他に底本となるものがあったことを示している。それについてキム・ジュンクン氏も、ダンビルの『朝鮮王国図』は、清朝で編纂された『皇輿全覧図』を底本に作図されていたとしている。それも于山島を「Tchian - chan-tao」と表記しているのは、『皇輿全覧図』では于山島を千山島と誤記していたからだという。この事実は、『皇輿全覧図』にもまた、于山島を千山島と誤記した底本が存在していたことを意味するのである。



ダンビル『朝鮮王国図』と「Tchian - chan-tao」部分 『皇輿全覧図』の千山島

ではその『皇輿全覧図』が参考にした「朝鮮地図」とは、どのような地図だったのか。結論から言うと、それは『新增東国輿地勝覧』系統の地図である。



『新增東国輿地勝覧』 「江原道図」の于山島と鬱陵島

「東北アジア歴史財団編『西洋古地図の中の朝鮮半島、東海そして独島』を批判する」(抜粋)②

下條正男(島根県立大学・東海大学客員教授)著

ダンビルが底本とした清の『皇輿全覧図』は、康熙帝の勅命でフランス人のイエズス会士レジス等が1708年に測量を始めて、1717年に完成していた。

だが朝鮮半島の部分は、測量をせずに、既存の朝鮮地図を用いた。その時点で、朝鮮半島の地図として存在したのは、官撰の『新增東国輿地勝覧』系統の地図である。そして事実、『新增東国輿地勝覧』系統の流布本の中には、于山島を子山島、干山島、千山島等と表記したものが実在している。

鄭尚驥が『東国地図』を作成したのはその『皇輿全覧図』の完成後で、鄭尚驥が描いた于山島は、鬱陵島の東約2^キの竹嶼であった。

この事実は重要である。『皇輿全覧図』が底本とした『新增東国輿地勝覧』系統の地図に描かれた于山島は、鬱陵島に対比されていた于山島だったからだ。

ダンビルは、その『新增東国輿地勝覧』系統の地図を基にした『皇輿全覧図』を底本に、『朝鮮王国図』を作図していたのである。これは「Tchian - chan-tao」と表記された于山島は、『新增東国輿地勝覧』系統の地図に由来する于山島で、独島ではなかったということなのである。

『西洋古地図の中の朝鮮半島、東海そして独島』では、そのダンビルの『朝鮮王国図』が後世の西洋の古地図に影響を与え、西洋では独島を「Tchian - chan-tao」と表記したとしている。

だがダンビルの『朝鮮王国図』で、「Tchian - chan-tao」と表記された于山島は、『皇輿全覧図』の中の千山島(于山島)であった。さらにその『皇輿全覧図』は、朝鮮時代前期に編纂された『新增東国輿地勝覧』を底本として、作図されていたのである。

それも『新增東国輿地勝覧』系統の于山島は、鄭尚驥の『東国地図』系統の地図で鬱陵島の東約2^キの竹嶼に比定されると、次第に地誌から姿を消していった。

ダンビルの『朝鮮王国図』に描かれた朝鮮半島が、『新增東国輿地勝覧』系統の地図を底本とした『皇輿全覧図』の朝鮮半島であった以上、そこに描かれた「Tchian - chan-tao」は鬱陵島に対比された于山島で、独島(竹島)ではなかったのである。